

経営比較分析表（平成28年度決算）

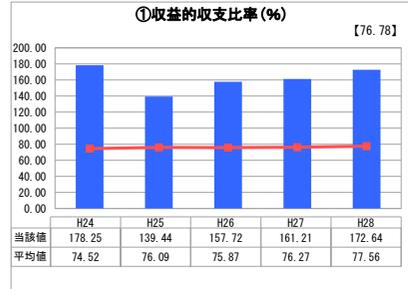
神奈川県 清川村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	該当数値なし	97.38	1,663	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
3,039	71.24	42.66
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
2,934	4.50	652.00

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



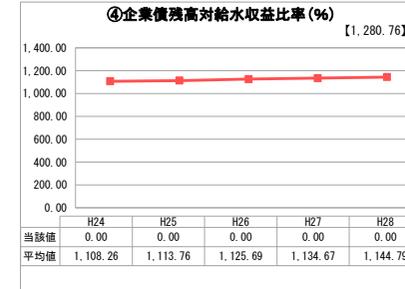
「単年度の収支」



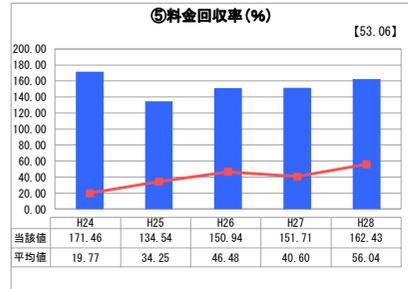
「累積欠損」



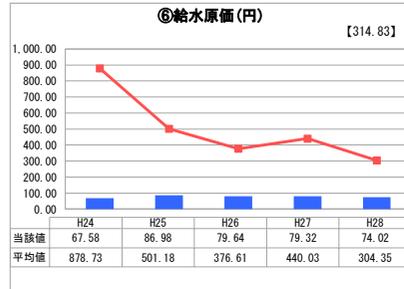
「支払能力」



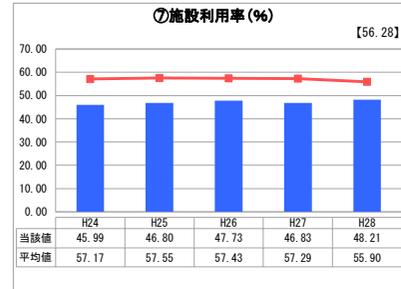
「債務残高」



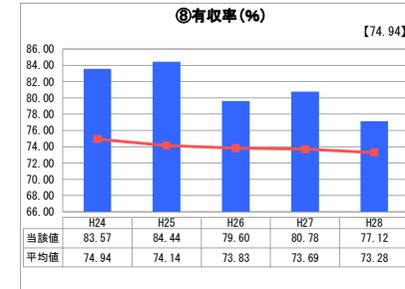
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

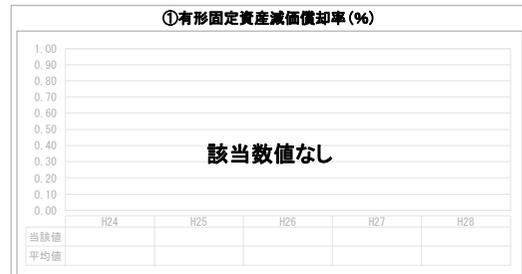


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は100%を超え、平均値も上回っており、また、企業債の借入高もなく、料金回収率についても100%を超え、平均値を上回った回収がされており、比較的健全な経営であるものと思われまます。給水原価についても、運転管理経費を極力抑えていることから、平均値より低い原価となっております。有収率については、平均値を上回っていますが、平成28年度において下がり傾向にあります。経営が比較的安定しているものの、料金収入が年々下がっており、また、施設の老朽化対策を講じていくため、さらなる経費の削減が求められます。

2. 老朽化の状況について

施設の老朽化については、10年計画を立て、随時改修に努めてまいりましたが、機械設備及び管路について老朽化が進んでいることから、平成28年度に中長期的な財政計画を踏まえた「第2期更新事業計画 (H29~H38)」を策定し、今後も適宜改修を進めていく必要があります。

全体総括

近年、各家庭において節水型家電の普及、また、人口の減少に伴い、年々水道使用量の低迷が進んでいます。一方、施設、設備の及び管路の老朽化により、維持管理経費は増加傾向となっていることから、収支のバランスを見据え、経費の削減として施設管理の委託化、また、平成28年度に料金の一部改定（値上げ）したものの、当面は、財政調整基金の推移により料金改定の必要性を検討していく必要があります。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。